

科目名		テーマ		
学校カウンセリング		学校カウンセリングの意義と個々の問題への具体的役割について考える。		
担当者名	配当年次	単位数	学科	選択・必修/指定科目
伊尻 正一	3年	2	社会福祉	選択

[授業の内容・到達目標]

[授業の内容]

現在、中学校を中心に多くの学校にスクールカウンセラーが配置され、不登校やいじめなど様々な問題に対してカウンセリングをおこなっている。しかし、実際にはカウンセリングだけの対応では十分ではなく、児童・生徒を取り巻く環境への働きかけや保護者との連携なども必要になってくる。学校カウンセリングは、カウンセリングを中心とした様々な支援で、児童・生徒の自己実現を図ることを目指している。

本講義では、学校カウンセリングの中で取り上げられる実際の問題について解説する。例えば、最近耳にすることが多くなった発達障害について、本人や周囲の子ども、担任教師に対する支援を考える。また、いじめ、不登校、チック、場面緘黙など通常学級の中でしばしば起こる問題についても原因と支援を考える。さらに、それらの問題解決に対しインシデント・プロセス法により実際の具体的な支援方法について受講生同士グループで議論する。また、子ども虐待や教師と保護者との関係についても、最近の研究をもとに解説し、学校カウンセリングの中で如何に対処していくかを考える。

[到達目標]

- ・学校内外で起こっている様々な問題の原因と対応を考えることができる。
- ・学校内外で起こっている様々な問題に対し柔軟に対応できる。

[授業方法]

毎回プリントを用意して講義を行う。講義の中での議論やインシデント・プロセス法では集団での活動・発表など、受講生の積極的な参加が必須である。

準備学習：教育問題に関する新聞記事をしっかりと読んでくること。

[成績評価の方法]

授業への参加態度 20%

課題の提出 20%

試験もしくはレポートの成績 60%

[テキスト]

毎回プリントを配布する。

[参考文献]

参考文献

宮下一博・河野荘子 (2005) 「生きる力を育む生徒指導」北樹出版
 一丸藤太郎・菅野信夫編著 (2002) 「学校教育相談」ミネルヴァ書房
 中山巖編著 (2001) 「学校教育相談心理学」北大路書房

[履修上の注意・その他]

--

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	授業科目「学校カウンセリング」のオリエンテーション カウンセリングの基礎
2	学校カウンセリングの役割と問題点
3	発達障害の理解Ⅰ（PDD）
4	発達障害の理解Ⅱ（LD）
5	発達障害の理解Ⅲ（ADHD）
6	事例研究の持ち方（インシデント・プロセス法）Ⅰ
7	事例研究の持ち方（KJ法）Ⅱ
8	教師の対人認知Ⅰ
9	教師の対人認知Ⅱ
10	子ども虐待と学校カウンセリング
11	小学生の問題行動（不登校、選択性緘黙、チック）
12	中高生の問題行動（いじめ）
13	進路の問題（キャリア・カウンセリング）
14	非行
15	まとめ